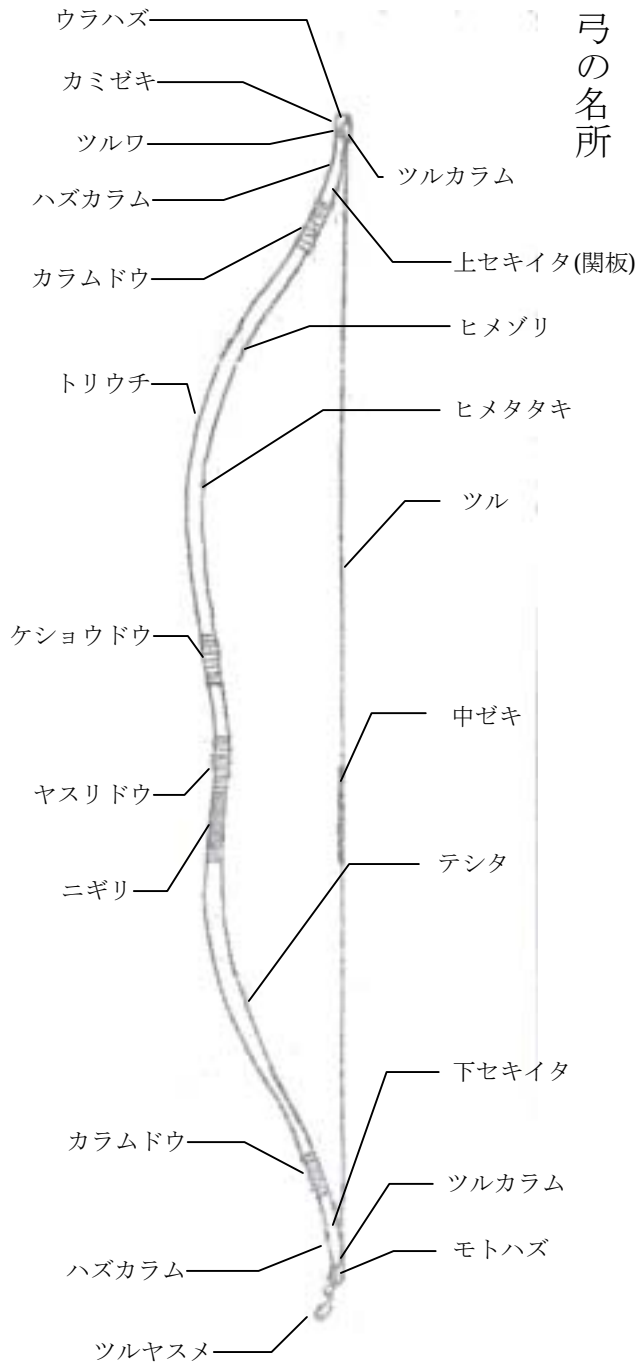


一・弓

弓の名所



△保存方法。手入

1. 弓は前述のやうに木と竹を鰹で着けたものだから、保存上

湿気と火気には注意しなければならぬ。

それで梅雨中や夏季湿気のある時は可成乾燥した所

に置き、使用後は必ず乾布で数回拭いて湿気や手の油

やほこりを防ぐ。止むを得ずして雨に濡らした時は特別よく湿気を拭取らなねばならぬ。それは鰯が柔かになるを防ぐためである。又火の気を嫌い日のそばを避けるは勿論日光直身の所に長く置く事は禁物である。

## 2.

弓は使用直前を張るよりも暫く前に張る方が良い。先づ

末弭を柱等につけた張板にあて左手で握を持つて突張り

右手を下より上に持上げるやうににて左膝に弓を載せ

本弭に弦をかける。そして握の上部と弦の中仕掛との間

で弓弮をはかり四寸八分内外とし張った形を見徐々に肩

を入れて見る。若しまがりか出て弦の坐りが悪い時は

(イ)掘の出た時、入り過ぎた時、上下ほこの偏している時

両手で弓を握り一方の弭を床につけ、直す所に脛或

は膝を当てて徐に押す。弦を張れば反ってしまふや

うな時は弓師に直させる方が良い。

(ロ)鳥打強く握下(手下)の弱い時及び此の反対に弓

が立ち過ぎる場合、成べく両手を広げ、弦を上にして弓を持ち強い所に脛を当てつ徐々に押す

(八) 鰯の離れた場合、此の位と思つて少し離れたのをそのままにしてをいてはならぬ。すぐ弓師に着けさせねばならぬ

又籐の離れた時は少しの不注意のために鰯が離れ

側木を裂く事が多いから早く直すが良い。

又よく使ひならした弓で外竹の鳥打の所が割れる

事がある。之を筈を出すと云っているが、一つは長く蔵

して非常に枯れている場合、一つは他人の弓を矢尺

の違ふ者が引いた時、又は三尺以上の矢尺をとる者が

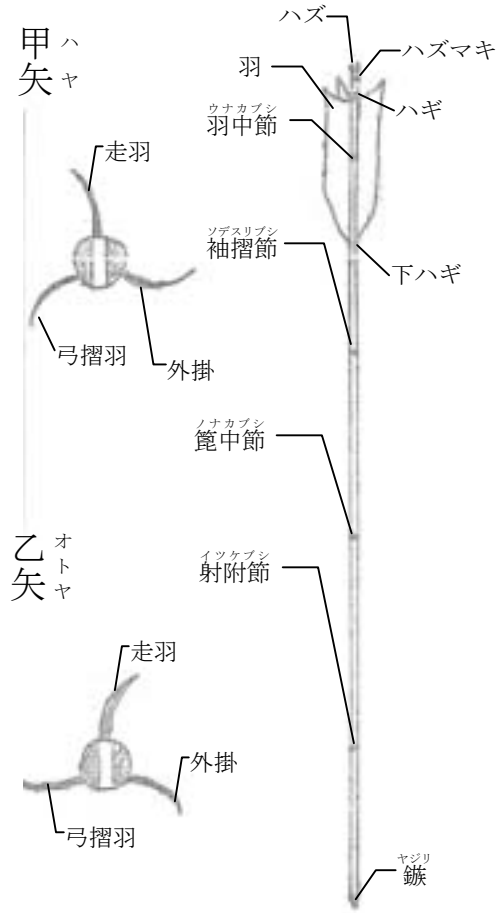
普通の長さの弓を引いたやうな時に起こりやすい。若し

筈を出した時は其のまま暫く使ひ大きくなれば

弓師に外竹を代えさすのである。

## 二. 矢

### 矢の名所



矢はこの甲矢と乙矢を合せて一手と言ひ四本を二手或は

一組又は四ツ矢と言ふ。これを「発矢、乙矢」「兄矢、弟矢」

「早矢、遅矢」とも書く。

△保存方法及手入

1. 弓と同じく湿気にあたると矯が戻るから常に乾燥

した場所におかなければならぬ。と言って火気にあたつ

たり日光直身の所に長く置く事も気をつけねばならぬ。若し止むを得ず雨に濡れた時は乾布で

よく拭いておく。又使用後も丁寧に拭かねばならぬ

羽には蟲がつき易いから風通しのよい場所に置くか

矢筒に入れてパラフィン等の防虫剤を用ひねばならぬ

## 2. 矢の生命は直なる事で始終直否を調べねばならぬ

それには左手の爪の上に篋中節と射付節の間の所を

載せて右の大指と人差指と中指とで筈を持ち軽

く廻してみる。矢が曲がつて居れば矢は左手の爪の上で踊る。

直なる時はすなほに廻る。

イ・矢の曲つてゐる場合、火鉢の火に篋をあぶり矯木で

真直にする。火を入れる時は十分注意して篋の痛まぬや

うにしなければならぬ。

ロ・羽の離れた時は膠を羽の軸にぬり羽を篋のにつけ、その

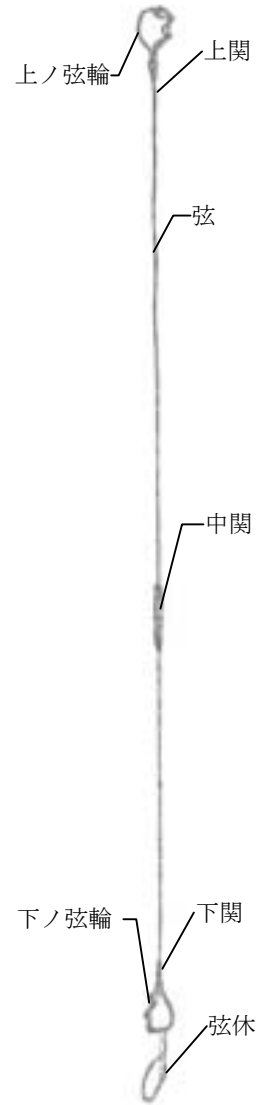
上から糸で巻いて半日位置いて置く。

ハ・筈の付替の時は新しい筈に膠をつけ少し麻を巻いて入れる。  
ニ・鏃の付替は矢の先にクスネをつけて麻を少し巻いて新しい鏃の中に入れる。

3. 昔は矢を蔵するのに鞞 胡籛 箠 空穂 等があつ

たが之等は戦闘用のものである。平生用ひるのには竹の節を抜いたもの張りぬき、紙捻製品等の矢筒がある。

弦の名所



△使用上の注意、手入れ保存方法

弦師の方で下の弦輪や弦体を作つてあるから中関と上の弦輪を作らねばならぬ。冬季上の弦輪を作る時は少し暖め

て曲げると弦の折れる憂がない。上と下との弦輪は弓を張る時対象になるやうに掛ける。

中関は細くて而も弦の損傷を免るる様に作るので、矢のあたる所を太く両端を次第に細くなるやうにする。

先づ四寸五分位の麻を用意し弓を張り矢を番へて見る。

矢筈の当る所から其の附近にクスネを塗り矢筈のあ

たる所より五分位下から麻を巻き上一寸位で止め逆に

下へ巻き下ろす事三寸五分許。今仕掛けた麻のほぐれぬ

やうに其の上からクスネを塗りモミ木にて揉固める弦は

使用の前後にクスネを塗り古弦で作った弦しごき（ザウリ）

で擦れば長く持つ。殊に冬季乾燥の時必要である。

弦は使用後木弭から離し弦休を木弭に掛けて置

くか弦巻に巻いておく。

弦巻は籐で作ったもので下の弦輪から巻いて上の弦輪で

巻き終はる。昔は弦巻きを藁で作った事もあり又弦袋

と言うものがあつた。

平素の射士の心得として使用中の弦の外に尚一，二本は相当

矢数をかけた弦を弦巻にしのはせ弦の切れた時等の用意

をしておく心掛が必要である。



#### 四、鞞、ギリコ、クスネ

△鞞は鹿のなめしがわで作るから革に意味があり、葉は

音符である。弓を射る時掛けるからユガケと言ひ略

して「カケ」とも言ふ弓懸・鞞・鞞とも書く。

#### △保存方法、手入

鞞をつけるには先づ下鞞（下指）を指につけてから鞞をつけ

左手で紐を結ぶ鞞の掛具合は射る時気持ち左右す

るから（事が多い）堅すぎず柔らかすぎず適當の堅さに紐を

巻き最後に腕の内側又は外側で止める。

元來鞞は鹿革で作られたものであるから最も塩氣即ち

汗を嫌ふ。けれども弓道上達の為には練習に汗を厭

ふやうではならぬそれで使用後はなるべく巻き納め

てしまはず日陰の風通しのよい所に吊るすのがよい

又使用中長時間掛通しにせず時々取り外すのは

鞞の為にも手の休息の為にもよい。ギリ粉を使ふ為に

中指或は名無指の革が損じ又は弦枕がくづれ

固帽子の角が割れたりするのは普通の損傷である

が鞞の修理は鞞師に任さねばならぬ事が多い。

又雨露を避けるのは勿論、万一ぬれた時は乾布で水

気を取去り汗の時と同じに手当てをする。又糊を多く

使用する為に長時間の存保には箱に納めて防虫剤を入れる。

種類として柔帽子、半固帽子、固帽子、一具鞞

柔帽子これは初歩の者が用ふる自由に指がいろぐ。半固は其の

次に用ひ固帽子は強い弓等に用ふ。一具鞞は五本の手袋

になったものである。なほ固帽子に三ツガケと四ツガケとある。

### △ギリ粉

射を始める前に鞆の大指の先につける。射が会に入  
った時に粉がギリギリと音を立てるからギリ粉と名付け  
たものだらう。

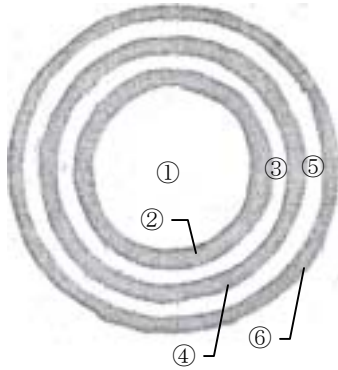
### △天鼠

天鼠は始め菓練と書いた。天鼠は蝙蝠の事である。  
がオランダ人から蝙蝠の脂を入れる事を習ってから菓練  
を天鼠と書くやうになった。現今は其の法廃れ松脂と油を  
煮詰めて製し之を皮に挟んで弦に塗る。

△的の種類

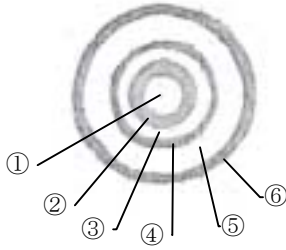
一. 大的、小的、半的、練習用小的

大的



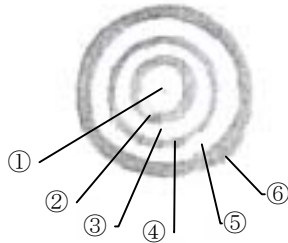
- |    |      |     |      |      |      |      |
|----|------|-----|------|------|------|------|
| 6. | 5.   | 4.  | 3.   | 2.   | 1.   | 直径   |
| 山形 | 三の白  | 霞の輪 | 大の白  | 一の黒  | 小服   | 五尺二寸 |
|    | 三分   | 五分  | 二尺五分 | 三尺五寸 | 二尺七寸 |      |
|    | 二寸九分 |     |      |      |      |      |

半的



- |    |        |        |        |        |    |      |
|----|--------|--------|--------|--------|----|------|
| 6. | 5.     | 4.     | 3.     | 2.     | 1. | 直径   |
|    |        |        |        |        |    | 二尺六寸 |
|    | 一寸七分   | 一寸一分二厘 | 一寸六分七厘 | 一寸九分五厘 | 六寸 |      |
|    | 三寸五分七厘 |        |        |        |    |      |

小的



- |    |      |    |    |      |      |      |
|----|------|----|----|------|------|------|
| 6. | 5.   | 4. | 3. | 2.   | 1.   | 直径   |
|    |      |    |    |      |      | 一尺二寸 |
|    | 一寸一分 | 五分 | 一寸 | 一寸二分 | 二寸九分 |      |
|    |      |    |    |      |      |      |

練習用小的



- |   |      |
|---|------|
| 黒 | 直径   |
|   | 一尺二寸 |
|   | 直径四寸 |

最後の詞

そは幾年や

吾が鳥一中弓道班に

全國征覇ノ霸權が

輝く時は

あゝ待たるゝかな

大愚書く

昭和十七年度第五学年之ヲ製作ス

昭和十七年八月三日 脱稿ス

昭和十七年九月一日 収録ス

昭和十七年十一月三日 完成ス

編輯(集)

鳥取一中報國團鍛鍊部弓道班第五学年生徒

本部裕、時山泰、米井六郎、村江汎愛、

佐藤香、湯村壽雄

援助

村田勝彦、矢谷達郎、中西正明、

村山竹久、島田穰、西川唯一

如以上

不許複製